

久留米大学を受診した患者さんへ

「再発子宮頸がんにおけるプラチナ製剤 free 期間が化学療法の効果に及ぼす影響の後方視的検討」の研究に使用する試料について

この研究では、久留米大学を受診した再発子宮頸がんの患者さんの臨床データを使用します。

- 1) 期間：2014 年 8 月から 2014 年 12 月
- 2) 受診科：婦人科
- 3) 対象疾患名：再発子宮頸がん
- 4) 使用する試料：なし

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：静岡県立静岡がんセンター 婦人科
研究代表者：武隈 宗孝
所属：久留米大学 医学部 産婦人科
研究分担者：教授 牛嶋 公生
助教 河野 光一郎

2) 研究の意義と目的：子宮頸がん再発時のプラチナ製剤の再投与においてプラチナ製剤 free 期間が効果に及ぼす影響を評価することを目的とする。卵巣癌においてはプラチナ製剤 free 期間と再発時の化学療法の効果の関係が明らかにされているが、子宮頸がんではまだない。そこで、子宮頸がんにおいても同様な知見が得られれば、再発子宮頸癌の薬剤選択において有用な情報になることが期待できる。

3) 研究の方法：久留米大学病院婦人科において再発子宮頸がんの診断でプラチナ製剤の再投与を受けた症例の診療録を用いて、再発時情報、治療効果判定、生存情報等を調査し、プラチナ製剤 free 期間と奏効率の関連、再発後生存期間への影響を解析する。

4) 研究期間：平成 26 年倫理委員会承認後～平成 26 年 12 月 31 日

5) 上記の試料の使用を選定した理由：試料は使用しない

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：患者のプライバシー保護のため、患者は連結可能匿名化し、連続した番号で登録される。本試験に関する全ての試験担当者は「ヘルシンキ宣言」および「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、倫理委員会で審査承認された後に施設長の承認を得て実施する。

7) 研究成果の発表の方法：研究の発表に際しては研究対象者の個人情報公表されることのないように行う。

8) その他：

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

河野 光一郎 久留米大学医学部産婦人科学講座 助教
久留米市旭町67

(TEL) 0942-31-7573 (FAX) 0942-35-0238

研究番号 14091